



今年も豊作

秋の実りにつなげよう ~ぶどうのようにつながって~



校長 三角 浩 司

今年もシンボルツリーの一つ「葡萄」にたくさんの実が付きました。16日には、環境委員会を中心に「ぶどうのセレモニー」を放送で行い、与田準一さんの「ぶどう」の詩を全校で読み、みんなで葡萄をいただきました。この日、私は感染症予防の自宅待機となり出れなくなったため、あとからお話したことがあります。それは、「柏崎小の葡萄はなぜ美味しいか」です。柏崎小の葡萄はとても甘みがあり皮までとってもジューシーです。品種は「キャンベル・アーリー」かと思います（少し赤みがあり違うかもしれません）。アメリカ原産で、青森や岩手、北海道でよくとれます。ちなみに、葡萄の花言葉は「親切」「思いやり」「信頼」で、もう一つは「陶醉」。確かにワインにしたら美味しくて大人は飲みすぎてしまうかもしれません。スーパーで見る葡萄と同じ感じなのですが、柏崎小の葡萄はなぜか美味しいです。



旧校舎の葡萄棚



旧校舎でのセレモニー



大収穫 昭和53年頃

この葡萄は久保沢正雄校長先生の頃（40年ぐらい前）に植えられました。旧校舎では玄関前に葡萄棚があり、中庭では、2階にまで伸びていたと聞きます。青葉の地に移転した時に移植し、新しい葡萄棚にしっかり枝を伸ばし、今もこうしてたくさん実るようになりました。先輩方が、これまで一生懸命に手入れをし、「ぶどう」の詩に思いをのせて繋いできた葡萄です。美味しさのヒミツは、やはり一粒一粒に込められた**「先輩たちの思い・伝統」**だと思っています。

今、子どもたちは、この「ぶどう」の心を受け継ぎながら、感染症の状況乗り越え、学校の秋の実りに向けて頑張っています。マラソン大会や音楽会も、チャンスを見つけ、できる形を模索して、実りにつなげていきたいと思っています。

9月中の感染予防対策、そして通学路変更に伴う見守りなどへのご協力ありがとうございました。皆様のおかげで、柏っ子のみんなで安全に元気に頑張ることができます。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

「ぶどう」与田準一

ぶどうのように
 ひとつひとつが まるく
 ぶどうのように
 みんながひとつの ふさになって
 ぶどうのように
 ゆったりと においも あまく
 ぶどうのように
 よろこびを ひとからひとへ

<後期の頑張りにつながるよう>

9月30日は前期の通知表を子どもたちに渡しました。4月から夏休み、そして9月までの子どもたちの頑張りや成長がたくさん書かれてあります。感染症対策で我慢を強いられることが多い中、子どもたちは本当によく頑張っております。どうぞ、子どもたちの頑張りや成長をたくさん認め、後期もさらに成長していけるように励ましていただければと思います。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

